

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を壁に掲げ、念頭に置き、ケアを検討する際、家族との関係、問題が起きた時、など、常に理念に立ち返り、検討するように努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえ「住み慣れた地域で最良の状態ですらせる家庭的な住まい」を理念のひとつに掲げている。理念は玄関・ホールに掲示し、パンフレット・ホーム便りにも掲載して家族等にも理念を発信している。職員会議等で必要に応じて理念を振り返り確認する機会を設けて共有と実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	池島自治会の一員として、夏祭り、文化祭など、出来る範囲で参加させて頂き、地域の子供たちも遊びに来てくれ、交流を図り防災訓練では地域の協力を頂いている。	自治会に加入して生かさず暮らしや敬老会への招待を受けている。また、近隣とは日常的に自然体でのおき合いがなされており、避難訓練や運営推進会議に参加してもらうなどの良好な関係が築かれている。地域の文化祭に作品を出展したり、夏祭り時には地域の子ども達と一緒に灯ろう作りを行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の小学校、中学校のボランティア体験を受け入れ、警察学校の実習、看護学校の実習受け入れを行い、理解を深めてもらっている。自治会の防災訓練にも参加し、連携に繋げている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は年間計画書を作成し、一年を通して、グループホームを理解して頂けるよう工夫しました。一緒に高齢者安全教室に参加したり、推進委員以外の方を招くなど、更なる理解へ繋げている。	自治会長・民生委員・法人の苦情処理委員・消防署員・家族・近隣住民・行政等の参加で2カ月に1回開催している。ホームの状況報告・行事報告を行い、ホームの安全対策や地域の高齢者の問題点などが話し合われている。また、時には高齢者の健康管理・高齢者向けの食事紹介なども議題に取り入れている。毎回、充実した内容の話し合いがなされており、ホームの良き理解者として意見やアドバイスをもらいサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議の報告書や、えん便りを毎月お届けし、日々の取り組みをお伝えしている。また困りごとやわからない事など、その都度ご相談し、協力関係作りに努めている。	毎回、ホーム便りを届けたり、運営推進会議に参加してもらい、ホームの実情や取り組みを伝えて協力関係を築いている。また、生活保護受給者もおり、担当者との連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束については、十分に配慮を行い、職員の防止に向けての意識も高い。下肢筋力が弱く、自力で動かれ転倒の心配がある方は、センサーマットで対応して頂いている。	身体拘束廃止委員会を設置して定期的に法人全体での勉強会に参加し、拘束のないケアの実践に取り組んでいる。日中は玄関の施錠はせずに職員間の連携で安全で自由な生活を支援している。外出傾向の利用者には職員がさりげなく着いて行き散歩や状況に応じて自宅周辺に連れていくなどして対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常における虐待はないといえるが、研修会や勉強会に参加することで、職員全体での意識の向上に努めている。言葉による暴力も意識し、言葉遣いについて気を付けあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、制度を活用する状況にないが、研修会に参加することで、理解できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>制度が変わったり、契約内容に変化が生じた場合は、えん便りにおいて紹介したり、必要時はお知らせを発行し、心配な方には、個々に説明している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご意見を伺った際は、迅速に対応し、職員会議などで情報を共有している。面会時は状況報告を行い、ご意見を伺ったり、声にならない声にも気付けるようお互い気を配らせていただいている。</p>	<p>日常の面会時や電話連絡時に家族から意見・要望を聞き出すように努めている。出された意見・要望については職員間で話し合っ運営に反映させている。法人に苦情処理委員を設置しており、外部者に表せる機会を設けている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員は、職員会議において、意見を反映させ、管理者は代表者に報告し、職員の意見に耳を傾けてもらっている。</p>	<p>毎月、全員参加の職員会議を行って意見・提案等を話し合っている。毎回、充実した内容の話し合いが行われていることが会議録から確認できる。また、日常の申し送しも1・2階合同で行い、職員間の情報の共有を図り、必要に応じて話し合いも行っている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員は管理者に個々の事情を伝える機会があり、それを勤務表に反映させてもらっている。職場環境作りにも、職員会議などを通じ、積極的に耳を傾けて頂き、管理者は代表者にその都度報告を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の研修を定期的に行っている。また、専門性の向上に加え、人間性の向上に向けた勉強もさせていただき、「職場の教養」などの配布も毎月して頂き購読することで教養の向上に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修会に参加し、情報交換に努めている。また、系列の施設を中心に、情報交換させて頂く事で、お互いの質の向上へ繋げている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談、情報提供により得た情報をもとに、一つ一つ声掛けし、確認しながら信頼関係を築いている。困った事には迅速に対応し、不安につながらないように全職員で気を配っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最近入居した方は家族が福島からの被災者で、県外に居られ、本人も生活保護を受けておられる。家族の状況に合わせた対応をし、安心される情報提供を行い、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身の回りの物をそろえたり、生活保護の受給者との事で、担当者との連携など、行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	難聴で、コミュニケーションがとりにくい方に対して、ジェスチャーや、執談を用いるなど、いろいろと工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を取り巻く家族との関係を理解し、本人の日頃の思いをお伝えする中、家族の関係作りにつなげていきたい。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた時に、楽しみに待っておられたことをお伝えし、次の面会をお願いするようにしています。又、同じ自治会の方が遊びに来られ、楽しく会話している。	馴染みの美容室、本人希望による一時帰宅、地元出身者はサロンに参加するなど家族の協力をもらいながら、馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。また、友人知人の訪問もあり、訪ねやすいように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おとなしい方、耳の遠い方もおられ、職員が間に入ることで馴染みの関係が築けるようにしている。最近では、重度の認知症の方の行動でトラブルになりやすいので他の方に理解を求め、安心されるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されても、洗濯はぼっぼえんで行っている。同系列の施設に入居された場合は、状態を見に行き、家族と話したり、コミュニケーションを図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思表示された時のコミュニケーション作りを行っている。難聴の方には執談を交えるなど工夫を重ねている。	日常の会話の中や筆談で思いや意向を把握している。意思疎通が困難な利用者からは表情や言動などから把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報提供を基にして、本人や家族より伺い、把握できるようにしている。面会時にご家族に教えてもらったり、雑談の中に、昔の様子を見つけられる様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のケアに携わる中、申し送りを重ねる中、連携を図っている。困りごとや、検討する内容は、時間をかけて工夫を重ね、ご本人にとって一番の方法をみつけるよう努力している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議の場でカンファレンスを行い、検討を重ねております。サービス内容など細かな対応も、いろんな意見を出し合い、現状に即した内容を、臨機応変に取り入れている。	本人・家族の思いや希望、職員の意見など反映した本人本位の介護計画を作成している。職員間のケアの統一が図れるように分かりやすく自立を妨げないサービス内容となっている。毎月、カンファレンスを行い、変化があれば都度見直しを行い、変化がなくても定期的に見直しを行って現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の申し送りにおいて、細かく個々の状態について報告し、記録に残している。心身の状態の変化についても細かく対応し、連絡帳に記すことで、全職員が目を通すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望で、圧迫骨折時の対応を工夫したり、できるだけご希望に合うように、関係機関に相談したりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人会の行事など、本人の気持ちに寄り添いつつ、参加できるように努めています。また、地域の方が気軽に面会に来て下さったり、楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医など、ご希望に沿いながら、対応し、特にない場合は紹介している。また、整形外科などは、家族と一緒に受診し、一緒に説明を聞き、考えている。	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。ホームより受診同行しており、結果は家族に随時報告している。訪問看護ステーションと医療連携が築かれており、利用者の健康管理が密に行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康面の変化や気づきは、看護職員の判断による指示によって対応し、必要によっては、訪問看護師の判断によって対応している。最近では訪問看護師による指示に支えられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された場合、看護師によるサマリを提出し、面会を重ねながら、病院職員から直接情報を頂いてきている。そうすることで、病院との連携を深めるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアの状態になられた場合、家族、訪問看護師、管理者、看護師、ケアマネによるカンファレンスを持ち、対応を検討している。また主治医やPTの意見も取り入れ、本人にとって最も望ましい対応を目指している。	重度化や終末期における指針を作成して入居時に説明している。入居後は身体状況に応じて主治医の判断のもと家族と方向性を決めてホームで出来る最大限の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修、施設内の研修において緊急対応について学ぶ機会をもっているが、緊急時は戸惑いも多く、訪問看護師によって支えてもらっている。それも経験につながっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の、地域を交えた防災訓練を重ねており、反省点を話し合い、次回の訓練に取り入れて活かしている。今年地域の方が大勢参加下さり、積極的に参加いただいている。	年2回昼夜間想定で避難訓練を行っている。訓練には消防分団・地域住民・家族の参加もあり、協力体制が築かれている。また、緊急連絡網にも近隣住民が登録されている。スプリンクラーも設置済みで備蓄も確保されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人に合った声掛けをし、その都度自己決定を促すなど、尊重した生活を目指している。馴染みの関係の中、鹿児島弁で話かけるが、言葉を崩しすぎないようにしたい。	定期的な法人の勉強会と日常の業務で気づいたら都度注意し合うなどして職員の資質の向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が嫌がられる時は無理強いをせず様子を見たり、再度声掛けしながら本人の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家族に電話してなどの要求があるときは、本人の要望などをお聞きしそれにこたえるように努めている。又居室で過ごしたい方も尊重し、臨機応変な対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	入浴日の洗髪の際は、ドライヤーをくしでといたり、カットの時は本人の希望に応じた長さにカットしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の咀嚼の状態に合った形にするために、刻み食も段階に応じて分けてお出ししている。また時には季節の新鮮な食材を取り入れ、工夫してお出ししている。	食材をふんだんに使用した栄養バランスのいい食事となっている。皿洗いや盛り付け、魚のさばき、食材の下ごしらえ、おやつ作りなど積極的に手伝ってくれる利用者もおり、個々の能力を活かした支援を行っている。時には、季節の花見で外で弁当を広げたり、庭でのお茶や食事、父の日には大漁船ににぎり鮭をのせてお祝いするなど「食」が楽しめるように趣向を凝らしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合った食事の量にしたり、摂取されないときは本人の好きな食べ物や飲み物を召し上がって頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けに拒否がある場合は、その方のペースに合わせて、お茶を飲んで頂くなど工夫している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日の排泄チェック表の記入をしており、尿意をあまり感じない方には声掛けをするなどの対応をしています。また、朝、昼、夜の食事の後はトイレに座って頂くなどしている。	排せつチェック表を作成して個々の排せつパターンを把握し、日中は全員トイレでの排せつを支援している。また、自立している利用者もあり、維持できるように職員のさりげない声かけや誘導を行っている。入居後に改善された利用者も多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に食事メニューの中に、ヨーグルトや繊維のあるもの、汁物を取り入れ、工夫している。排便-3日目には座薬を挿入し、排便を促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の希望を尊重して体調をよく観察しながら行っている。入浴できない方などへは、身体を拭いたりするなど、清潔を心がけている。	基本的には一日おきとしているが、個々の身体状況や希望に応じて柔軟に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休憩されたい時は食後も本人の希望に沿って休んで頂いている。夜間の就寝時間もご本人にお任せしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬はもちろんの事、変化のあった時も、連絡帳に記入することで、全職員が把握するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自ら仕事を見つけてされるときは本人のペースに応じた見守りの中活気ある生活を送って頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	お天気の良い日や、行事や催し物などが開かれるときには、お一人お一人声掛けし、楽しんで頂けるよう外出している。近くの公園では催し物も多く、夏祭り、運動会、買い物など、楽しませてもらっている。	日常的には散歩や買い物同行で戸外に出かけられるように支援している。また、初詣・季節の花見・地域行事見学・フリーマーケット・こいのぼり見学・資料館見学などにも出かけて季節を感じられるように外出支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を手の中に入れて、「これから取って下さい」という事もある。</p>			
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話については、家族の声を聞いて落ち着かれる方もおられ、個々に応じて、できる範囲で対応している。手紙については、受け取る事は喜ばれても、書くことは望まれない。</p>			
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>毎日の掃除は勿論のこと、常に生け花を切らすことなく、玄関やリビングなどに飾り、楽しんで頂いている。また、室温の調整などに気を配り、快適に過ごして頂けるよう努めている。</p>	<p>共用空間は家庭的で落ち着いた雰囲気がある。テーブルとソファが置かれ、利用者は好みの場所でくつろいでいる。また、マッサージ器を設置して利用者がいつでも使用できるようにしている。台所もオープンで食事の準備の様子やにおいなどは生活感を与えてくれる。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングに、ソファや、小さい椅子を2客並べ、寄り添い話せる環境づくりからしている。馴染みの人が寄り添って過ごしている。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新しい利用者の方は本人が自宅で過ごしたようにこたつなど持ってこられ、本人が過ごしやすい環境づくりを行っている。	本人・家族と相談しながら、テレビ・ラジオ・仏壇・時計・家族の写真・飾り物など馴染みの物品が持ち込まれ居心地良く過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂のマークを設置したり、文字を使って案内することで、迷われないように工夫している。		